「指導ガイド（別紙評価表）」

臨床研修は「医師臨床研修指導ガイドライン―2024年度版―」に規定された「研修医評価票」で評価されます。
本「麻酔科臨床研修指導ガイド」の評価表は，その中で特に麻酔科で研修しやすい項目を抜粋しています。
「研修医評価票」で評価するうえでの補足ツールとしてご活用ください。
これらの項目は、麻酔科研修を通じて習得しやすい項目となりますが、当然、他の診療科を含め２年の研修期間全体を通じて経験することとなります。

公益社団法人日本麻酔科学会

臨床研修医に対する教育ガイドライン(手順書)作成のためのワーキンググループ

実施日に日付を入れて達成回数の目安としてください

手技	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
気道確保																				
人工呼吸																				
胸骨圧迫																				
圧迫止血																				
末梢静脈確保																				
末梢動脈確保																				
中心静脈確保																				
静脈採血																				
動脈採血																				
腰椎穿刺																				
導尿法																				
ﾄﾞﾚﾝﾁｭｰﾌﾞ管理																				
胃管挿入																				
局所麻酔																				
創部消毒																				
ガーゼ交換																				
軽度外傷熱傷処置																				
除細動																				

研修必須項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

気管挿管	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
2. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
3. 必要物品の準備	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
4. 十分な前酸素化	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
5. 処置前の酸素化、循環動態確認	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
6. 患者の体位（Sniffing posision、HELPなど）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
7. 充分な開口（クロスフィンガー、TAM）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
8. 喉頭鏡操作	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
9. 声門へのチューブ誘導と留置	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
10. 気管挿管の確認（ETCO2、聴診など）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
11. チューブ固定	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
12. 処置後の酸素化、循環動態を確認	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
13. 介助者との協働	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
14. 安全への配慮・必要な支援の要請	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
15. プロフェッショナリズム	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
16. 総合（概略評価）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン

研修医サイン

研修必須項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

気道確保	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
2. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
3. 必要物品の準備	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
4. 患者の体位（Triple airway manueverなど）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
5. 一人法、二人法の選択・実施	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
6. 経口/経鼻エアウェイの適応	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
7. 適切なサイズの経口/経鼻エアウェイの選択	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
8. 介助者との協働	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
9. 安全への配慮・必要な支援の要請	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
10. プロフェッショナリズム	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
11. 総合（概略評価）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン

研修医サイン

研修必須項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

人工呼吸	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖の理解	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 必要物品の準備	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. PCVとVCVの利点欠点の理解	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. 患者ごとに適切な呼吸器の設定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. SPO2 ETCO2モニタリングと解釈ができる	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. 必要に応じた気管吸引の施行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8. 適切なフィジカルアセスメント	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
9. Spontaneous Awaking Trial - Spontaneous Breathing Trial を経たウイニング	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
10. 酸素療法の選択（カヌラ、マスク、NHF, CPAP）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
11. 処置後の酸素化、循環動態を確認	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
12. 介助者との協働	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
13. 安全への配慮・必要な支援の要請	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
14. プロフェッショナリズム	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
15. 総合（概略評価）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン

研修医サイン

研修可能項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

胸骨圧迫	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
2. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
3. 必要物品の準備	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
4. 意識・呼吸・循環の確認	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
5. 胸骨圧迫の手技(手掌と腕、場所、深さ、速さ)	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
6. 介助者との協働	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
7. 安全への配慮・必要な支援の要請	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
8. プロフェッショナリズム	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
9. 総合（概略評価）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研修医サイン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研修必須項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

圧迫止血法	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
2. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
3. 必要物品の準備（圧迫止血資材など）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
4. 患者への説明	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
5. 止血部位の特定	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
6. 圧迫部位の選択	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
7. 適切な圧と圧迫時間の決定	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
8. 圧迫中の観察（末梢循環障害・神経障害の有無など）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
9. 止血効果の確認	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
10. 介助者との協働	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
11. 安全への配慮・必要な支援の要請	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
12. プロフェッショナリズム	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
13. 総合（概略評価）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研修医サイン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研修必須項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

注射法（*は中心静脈穿刺時）	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. インフォームド・コンセントの取得	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 必要物品の準備	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. 適切な患者体位の設定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. 超音波による標的血管の観察*	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. 穿刺部位の消毒と清潔操作	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8. 適切な穿刺手技（針の持ち方・穿刺角度）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
9. 血管穿刺と逆血の確認	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
10. 自発呼吸時の息止め指示の重要性の理解*	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
11. ガイドワイヤーの挿入と超音波装置での確認*	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
12. 適切なダイレーターの操作*	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
13. 適切なカテーテル先端位置の選択*	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
14. カテーテルからの逆血確認*	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
15. カテーテルの固定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
16. 介助者との協働	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
17. 合併症の評価												
18. 安全への配慮・必要な支援の要請	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
19. プロフェッショナリズム	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
20. 総合（概略評価）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研修医サイン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研修必須項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

採血法（静脈血*・動脈血）	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. インフォームド・コンセントの取得	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 必要物品の準備	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. 適切な採血部位の選択	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. 適切な患者体位・肢位の固定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. 駆血帯の使用*	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8. 採血部位の消毒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
9. 適切な穿刺手技（針の持ち方・穿刺角度）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
10. 採血管・注射器を用いた採血の実施	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
11. 採血後の適切な圧迫止血	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
12. 検体ラベル確認と採血管の提出	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
13. 介助者との協働	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
14. 安全への配慮・必要な支援の要請	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
15. プロフェッショナリズム	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
16. 総合（概略評価）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン

研修医サイン

研修必須項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

腰椎穿刺	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. インフォームド・コンセントの取得	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 必要物品の準備	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. 適切な患者体位の設定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. 穿刺部位の決定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. 穿刺部位の消毒と清潔操作	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8. 穿刺部位の浸潤麻酔	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
9. 適切な穿刺手技（針の持ち方・穿刺角度）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
10. 穿刺針の脊髄くも膜下腔への到達確認	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
11. （脊髄くも膜下麻酔の場合）局所麻酔薬の注入	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
12. （髄液採取/ドレナージの場合）髄液圧測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
13. （髄液採取の場合）髄液の採取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
14. 穿刺部位のドレッシング	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
15. バイタルサインのチェック	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
16. （脊髄くも膜下麻酔の場合）麻酔高の確認	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
17. 介助者との協働	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
18. 合併症の評価	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
19. 安全への配慮・必要な支援の要請	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
20. プロフェッショナリズム	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
21. 総合（概略評価）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン

研修医サイン

研修可能項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

導尿法	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. インフォームド・コンセントの取得	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 必要物品の準備	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. 適切な患者体位の設定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. 消毒と清潔操作	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. カテーテルへの潤滑剤の塗布	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8. カテーテル挿入（挿入角度、挿入の力加減）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
9. 膀胱到達後の尿流確認	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
10. （カテーテル留置の場合）バルーンへ蒸留水注入	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
11. （カテーテルを留置する場合）カテーテルの固定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
12. 介助者との協働	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
13. 合併症の評価	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
14. 安全への配慮・必要な支援の要請	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
15. プロフェッショナリズム	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
16. 総合（概略評価）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）

指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン

研修医サイン

研修可能項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

ドレーン・チューブ類管理	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
2. インフォームド・コンセントの取得	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
3. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
4. 必要物品の準備	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
5. 適切な患者体位の設定	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
6. 刺入部位の消毒と清潔操作	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
7. 適切なドレーンのクランプ/デクランプ手技	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
8. レントゲン画像等によるドレーン位置の確認	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
9. 水封式ドレーンの適切な管理	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
10. 脳脊髄液ドレーンの適切な管理	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
11. 介助者との協働	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
12. 合併症の評価	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
13. 安全への配慮・必要な支援の要請	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
14. プロフェッショナリズム	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
15. 総合（概略評価）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）

指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン

研修医サイン

研修必須項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

胃管の挿入と管理	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. インフォームド・コンセントの取得	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 必要物品の準備	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. 挿入長の推定（鼻孔/口腔→耳介→剣状突起）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. 胃管への潤滑剤の塗布	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. 垂直に近い角度で胃管を鼻腔内に挿入	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8. 患者に嚥下を促し嚥下に合わせて胃管を進める	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
9. 意識がない場合は輪状軟骨を挙上させ胃管を進める	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
10. 胃管が口腔内で巻いていないかを確認	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
11. 聴診法で胃管先端が胃内にあることを確認	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
12. レントゲンで胃管の位置を確認	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
13. 胃内容物を吸引	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
14. 胃管の固定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
15. 廃液バッグに接続	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
16. 介助者との協働	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
17. 合併症の評価	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
18. 安全への配慮・必要な支援の要請	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
19. プロフェッショナリズム	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
20. 総合（概略評価）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研修医サイン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研修必須項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

局所麻酔法	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. インフォームド・コンセントの取得	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 必要物品の準備	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. 消毒と清潔操作	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. 注射針の穿刺	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. 逆血確認と局所麻酔薬の注入	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8. 麻酔効果の確認	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
9. 介助者との協働	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
10. 合併症の評価	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
11. 局所麻酔薬中毒に対する適切な対応	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
12. 安全への配慮・必要な支援の要請	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
13. プロフェッショナリズム	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
14. 総合（概略評価）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン

研修医サイン

研修可能項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

創部消毒とガーゼ交換	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
2. インフォームド・コンセントの取得	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
3. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
4. 必要物品の準備	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
5. 創部の観察（発赤、腫脹、硬結、滲出液、疼痛）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
6. ドレッシング材を無菌操作かつ安全に除去	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
7. 創部を中心に適切な範囲の消毒	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
8. 消毒薬の乾燥後新しいドレッシング剤を装着	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
9. 消毒後の状態を確認	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
10. 介助者との協働	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
11. 合併症の評価	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
12. 安全への配慮・必要な支援の要請	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
13. プロフェッショナリズム	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
14. 総合（概略評価）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン

研修医サイン

研修可能項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

軽度の外傷・熱傷の処置	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. インフォームド・コンセントの取得	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 必要物品の準備	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. 創部を適切に洗浄し、異物・汚染の有無を確認	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. 創部の状況に応じたドレッシング剤を装着	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. 熱傷の範囲と深度を評価	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8. 出血量に応じた輸液の投与	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
9. 熱傷範囲と深度に応じた輸液の投与	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
10. 介助者との協働	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
11. 合併症の評価	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
12. 安全への配慮・必要な支援の要請	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
13. プロフェッショナリズム	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
14. 総合（概略評価）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン

研修医サイン

研修可能項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

除細動	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 適応、解剖、手技の理解	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. 感染への配慮（手指消毒とPPE）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 必要物品の準備	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. パッド／パドルの装着	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. （パドル使用時）パドルに適切な圧を加える	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. 同期／非同期の選択	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. エネルギーレベルの設定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8. チャージする	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
9. 放電前の安全確認	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
10. 放電する	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
11. 心肺蘇生を再開する	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
12. 介助者との協働	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
13. 合併症の評価	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
14. 安全への配慮・必要な支援の要請	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
15. プロフェッショナリズム	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
16. 総合（概略評価）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン

研修医サイン

研修必須項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

緩和ケア	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 痛みの評価（強さ・部位・性質・増悪寛解因子・経過）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
2. 鎮痛薬の選択	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
3. 鎮痛薬の用量調節	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
4. 副作用対策の計画	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
5. 鎮痛効果・副作用の確認	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
6. 非薬物療法の検討	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
7. 鎮痛補助薬・骨修飾薬の適応を検討	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
8. 放射線治療・神経ブロックの適応を検討	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
9. 継続評価をする	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
10. 多職種との協働	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
11. 安全への配慮・必要な支援の要請	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
12. プロフェッショナリズム	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
13. 総合（概略評価）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研修医サイン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研修必須項目

日付　　年　　月　　日（研修　　日・週・月　目）

これまでの手技経験回数（0, 1-5, 6-10, 11-15, 15-20, 20以上）

症例の難易度（易・普通・難）

集中治療	自己評価						指導者評価					
	1	2	3	4	5	未実施	1	2	3	4	5	評価不能
1. 術後集中治療の適応を考えた患者の全身状態の把握	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
2. 気道の状態	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
3. 呼吸状態	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
4. 循環動態	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
5. 意識（麻酔の状況を含む）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
6. 術後合併症を意識した術後集中治療の必要性の理解	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
7. 看護師への術後集中治療の指示	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
8. 手術室からICUまでの移動　物品の確認	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
9. 移動中のモニタリングの実施	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
10. 挿管患者における気道確保のモニタリング	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
11. 挿管患者における適切な呼吸管理（陽圧）	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
12. ICU入室時の全身状態の把握	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
13. 集中治療医師への申し送り	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

※ 5:後進を指導できる、4:ほぼ単独でできる、3:指導医がすぐに対応できる状況下でできる、2:指導医の直接指導下にできる、1:介助できる

指導者からのフィードバック（良かった点）	指導者からのフィードバック（改善すべき点）

指導者と合意した学修課題

指導者サイン

研修医サイン